

## 5. 鶴岡市

### (1) 当該自治体の抱える課題

鶴岡市では市の地域福祉計画において、「支援の届いていない人、手助けを求められない人や世帯の課題の早期発見・早期対応に取り組むこと」に重点を置いており、これに基づき自殺対策、ひきこもり等の各分野において、自殺予防対策ネットワーク会議、ひきこもり支援連携会議、地域福祉計画策定協議会（令和3年度まで）を設置してきた。ひきこもり対策や自殺対策など個別の取組は実施されていた一方で、孤独・孤立対策としての包括的な取組はなく、横断的な課題に対する支援体制が整っていないかった。

#### ①事業開始前の課題

本事業の申請段階においては、本市の自殺死亡率は近年低下傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた令和2年では急激に高くなっており、県や国と比較しても高い状況となった。また、市内で活動しているNPO団体の相談会には、親族にも頼ることが出来ない等、人とつながることに困難を抱えている方々からの相談が多く寄せられており、孤独・孤立状態にある方が増加していると推測されていたが、具体的な実際の市内の状況については把握できておらず、対策に向けた情報収集が不十分である点が課題であった。

#### ②事業開始当初の課題（自治体ヒアリング結果）

当該自治体の現状等を詳細に把握するため初回ヒアリングを行ったところ、次の現状、課題感及び実施希望を聴取できた。

- ア 連携PF形成の参考となる協議体については、高齢者福祉分野、障がい者福祉分野、子ども分野、自殺対策分野、引きこもり支援分野等において協議会等が設置されている。各分野における協議体のうち、特に自殺対策分野については、自殺対策ネットワークや自殺対策計画等、積極的にこれまで活動を実施していきっていた。しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルスによる行政側の業務負担の増加等の影響から、以前と比較すると対策自体が縮小していた。これを受けて、令和3年度にはひきこもり・自殺対策事業の実施等、孤独・孤立の核問題に関する取組がなされてきたが、スポット的な対策に留まっていた。
- イ 市内において孤独・孤立支援分野のNPO法人の活動は多くはないものの、子ども福祉に関するNPOでは精力的に活動する団体が存在する。まずは、関係各課に向けて、各分野における市内の主要団体・NPOについて情報収集をする必要があると感じている。また、NPOではない任意団体は相当数あると予想される。
- ウ 孤独・孤立支援は幅が広く、すべての分野において支援をすることがリソースなどの観点から可能かどうか懸念している。そのため、本連携PFにおいてもどこの分野までをカバーすべきか決めかねている。また、重点分野を設定する場合においても、どのように選定していったらよいか不明瞭な状態である。
- エ 試行的事業の案については以下のとおり

a, 孤独・孤立に関する実態把握調査

(実施理由) これまで令和2年にひきこもりの調査を予定したが、民生委員への調査手法やターゲット設定の難しさから、思うように実施ができていなかった。一方で、孤独・孤立対策を検討する際に、市内の現状について把握しておくことが必要だと考えており、今回の試行的事業において実施を検討している。

b, 孤独・孤立支援に関する市内周知のための販促物作成

(実施理由) 相談できる窓口が整っているという点を伝えていきたいと考えている。そのために、SNS やチャットボット等の IT 技術を利用した手法も検討される。一方で、高齢者にはチラシ等の紙媒体が周知には有効だと考えられる。情報を届けるターゲット設定によって媒体は異なるため、まずは発信手法から検討していきたい。

c, 連携 PF 設置を見据えた準備会の開催

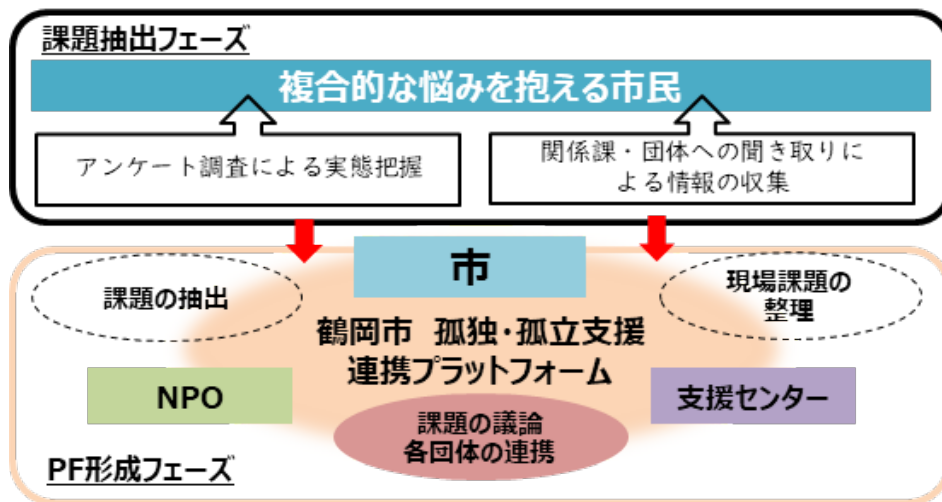
(実施理由) 連携 PF の設置に向けて、まずは関係団体の整理と連携 PF の基盤づくりを目的とした準備会を実施したい。孤独・孤立対策については、分野が幅広くなっていることから担当課が多岐にわたっている。そのため、まずは連携 PF の構成団体を抽出するところから始めていきたいと考えている。構成団体は既存の協議体や各課へのヒアリングからピックアップする。準備会に参加する団体を連携 PF 構成団体の各分野における核として設定することで、各分野・団体に横断的な議論をしていきたいと考えている。

(2) 当該自治体の連携 PF が目指すべき方向性

これまで鶴岡市が有する課題観及び初回ヒアリングにおける聞き取りを行った結果、鶴岡市において求められる連携 PF 形成の方向性を下記のとおり整理した。

■鶴岡市における連携 PF 形成の方針

連携 PF の形成目的	孤独・孤立支援に関するテーマ横断・ワンストップ型の協議体とすること
連携 PF の目指す状態	行政、市内相談先、NPO 法人等の市内の支援団体が、孤独・孤立問題についてワンストップで検討し、横断的に連携することができる協議会とすること
新設/既設の別	新設
主な構成団体案 (活動開始時点)	市役所関係課、市内支援センター、市内 NPO 団体等であり、孤独・孤立支援に関係する各分野で活動している団体 (10 団体程度を想定)



(図表 6 - 1 鶴岡市 連携 PF 組成イメージ)

(3) 当該自治体が実施した試行的事業の内容

鶴岡市が実施した試行的事業については以下のとおり。

NO	試行的事業の名称	時期	実施内容と期待効果
1	アンケート調査事業	2023年1月 ～2023年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市内における孤独・孤立に関するアンケート調査の実施</li> <li>・市内における現状把握を目的</li> </ul>
2	設立準備会の開催	2023年3月24日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市内における連携PF設置に向けた各関係団体の意識醸成</li> </ul>
3	広報媒体の作成 (周知チラシの作成)	2023年2月 ～2023年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の方に向けた孤独・孤立支援の周知チラシの作成</li> <li>・市内相談窓口の情報の周知</li> </ul>

(図表 6 - 2 試行的事業一覧)

①No. 1 アンケート調査事業

<p><b>【市民向け WEB アンケート】</b></p> <p>市内の孤独・孤立に係る現状を把握するためにアンケートを実施</p> <p>回収数 : 1,119件 (配布数 2,000)</p> <p>設問数 : 28問 (内閣官房の全国調査原票を参照)</p>
---

(図表 6 - 3 アンケート実施内容)

本事業は無作為抽出による郵送でのアンケート回収と合わせて、同様の内容に関するWEB ページ上でのオープン調査も実施し、市報、HP 等で情報発信を実施した。

抽出調査については、配布数 2000 件の内、57.6%にあたる 1153 件の回答を得ることができた。

### 鶴岡市 人と人とのつながりに関するアンケート調査

この調査は、鶴岡市における孤独・孤立の実態を把握し、関連行政諸施策の基礎資料を得ることを目的として実施するものです。調査票情報の秘密の保護に万全を期していますので、ありのままをご記入ください。

※アンケートの回答時間は、約15分です。ご協力をお願いします。

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、原則として、**あて名のご本人**がご回答ください。
- ご回答は、**令和5年1月1日現在**の状況をお願いします。
- ご回答は、選択肢の中から選んで数字で○印をつけてください（一部、数字を記入するものがあります）。
- ご回答の○の数は、(○はひとつだけ)、(○はいくつでも)などと表示していますので、それに合わせてください。
- 設問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、ご了承ください。必ず書きや英印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は次の設問に進んでください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**令和5年2月12日(日)まで**にご投かんください（切手は不要です）。

調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

◆お問い合わせ先（調査実施者）◆

鶴岡市 健康福祉部 地域包括ケア推進室  
電話：0235-35-1251（平日8:30～17:15）

### 鶴岡市 人と人とのつながりに関するアンケート調査 オンライン回答のご案内

回答用ページ URL 及びあなた様のログイン情報

回答用ページ URL	https://en.surece.co.jp/tsuruoka2022	回答用ページ 二次元コード
ID		
パスワード		

※IDやパスワードは第三者に伝えないなど、取扱いには十分にご注意ください。  
※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はありません。

回答方法

パソコン、タブレット、スマートフォンからご回答することができます。オンラインでの回答は、下記のように行ってください。

- 回答用ページへアクセス**  
上記URLから、任意のブラウザへアクセスしてください。  
スマートフォンからは、右上の二次元コードを撮影取ってアクセスできます。
- 回答フォームにログイン**  
回答用ページで「ID」と「パスワード」を入力し、「次へ」ボタンを押します。

<回答用ページトップ画面>

ID: P001-123456789

パスワード: 12345678

- 回答を開始**  
表示される画面をよくお読みになって、当てはまる選択肢にチェックを入れてください。「その他」をお選びになった際は、特にお書き入力してください。

オンライン回答に関するご注意

- 回答は、調査票（紙）かオンライン回答（Web）のいずれかになります。重複しての回答が無いようにご注意ください。また、調査の対象となったご本人が回答してください。
- オンライン回答は、途中保存が可能です。中断される場合は、そのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答は保存されています。再回答の場合は、回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 画面を閉じると、画面から取り除かれた「戻る」ボタンをご使用ください。回答中にブラウザの「戻る」ボタンを使用しないでください。
- 回答は、各ページの5分以内に「次へ」ボタンを押してください。
- ウェブブラウザは以下の条件をご利用いただくために下記環境を推奨しております。  
[Windows] Chrome 最新版 / Firefox 最新版 / Microsoft Edge 最新版  
[Mac OS] Chrome 最新版 / Firefox 最新版 / Safari 最新版  
[Android] 標準ブラウザ (Chrome) 最新版  
[iOS] 標準ブラウザ (Safari) 最新版 / Chrome 最新版
- JavaScript及びCookieを有効にしてください。
- オンラインでの回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできません。
- 必ずこの個人情報は郵政かつ消滅に保護し、調査票をお取りする目的のみに使用します。本調査にご回答することで個人が特定されることはありません。
- オンラインでの回答は、令和5年2月12日(日)23時59分までです。

[WEB回答に関するお問い合わせ先]  
株式会社サベイリサーチセンター東北事務所 電話：022-225-3734（平日9:00～17:30）

料別納  
郵便

### 「鶴岡市 人と人とのつながりに関するアンケート調査」ご協力のお願い

日頃から市政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

先日、お送りさせていただきました「鶴岡市 人と人とのつながりに関するアンケート調査」にご協力いただき誠にありがとうございます。

調査結果は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるための貴重な基礎資料として、活用させていただきます。

まだご回答をいただけない方におかれましては、大変お手数をおかけいたしますが、同封の返信用封筒にて**2月12日(日)**までにご投かんください。

なお、このハガキはアンケートをお送りさせていただいたすべての皆様にお届けしておりますので、本状と行き違いで既にご回答いただきました場合には、何とぞご容赦いただけますようお願い申し上げます。

令和5年2月  
鶴岡市 健康福祉部  
地域包括ケア推進室

【この調査に関するお問い合わせ先】

鶴岡市 健康福祉部 地域包括ケア推進室  
住所：〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号  
電話：0235-35-1251（平日8:30～17:15）

(左上：アンケート帳票、右上：WEB回答案内 下：お礼状（督促）)

**鶴岡市** @city\_tsuruoka · 2月2日

【孤独・孤立に関するアンケート協力をお願い】

...

市では、孤独・孤立に関する実態調査「鶴岡市人と人とのつながりに関するアンケート」を実施しています（2月12日まで）  
孤独・孤立対策の基礎資料となりますので、ご協力をお願いいたします。

アンケートはこちらから URL : [en.surece.co.jp/2022tsuruoka\\_hp](https://en.surece.co.jp/2022tsuruoka_hp)

(図表6-4 SNSによるアンケート調査告知)

本アンケートについては、準備会での報告に向けて調査分析を実施した。分析においては単純集計に加え、クロス集計として各設問における性年代別の集計を行った。アンケートを分析した結果、鶴岡市の孤独・孤立については下記の傾向が見られた。

- (1)鶴岡市における孤独・孤立の状況は国の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。
- (2)「今後支援を受けたい」という人が3割程度おり、対象者のニーズを分析した上でリーチする必要がある。

- (3)孤独・孤立に至る状況は年代・性別によって異なっており、対象者に応じた支援策を検討する必要がある。
- (4)更に、社会的活動に参加している方は孤独・孤立感が低い傾向にあり、孤独・孤立対策には人とつながる場やコミュニケーションの取れる場づくりが有効であると考えられる。
- (5)支援を求める対象者がどのようなニーズをもっているか把握し、各関係機関において適切な相談受け入れ体制の構築や、相互コミュニケーションが取れる環境整備を行う必要がある。

なお、各性年代別の孤独・孤立の傾向を分析したところ、次ページのような結果が得られた。鶴岡市では、特に30代女性において孤独・孤立を感じている人が最も多い結果となった。また、各性年代別に孤独・孤立に至る状況について傾向を分析すると、それぞれの年代・性年代において孤独・孤立に至る前の悩みが異なることがわかった。特に、孤独・孤立を感じている30代女性については「出産・育児」等の悩みが孤独・孤立に繋がったという回答が多く見られたほか、孤独を感じ始める年代としては20代と50代が多くなっており、「一人暮らし」や「転居」といった悩みが孤独・孤立に繋がっている回答が多い結果となった。一方で、60歳以上のシニア層については、「家族との死別」が男女共に孤独・孤立に繋がっているという回答が多い。これらのことから、各年代や性年代によって孤独・孤立の状況は異なることが認識された。

今後は、各年代における孤独・孤立の悩みについて、「どんな方法での解決を求めているのか」「誰に助けを求めているのか」といった観点からターゲット像のニーズを分析し、それに合わせた支援制度および相談体制を準備することが必要だと考えられる。

年代	年代特徴	性別	性年代特徴
10代	「人間関係」「受験」等で孤独・孤立を感じる場合が多い	男性	孤独に至る前の状況として「人間関係」に関する悩みが最も多い
		女性	孤独に至る前の状況として状況として「受験」が最も多い
20代	孤独を感じ始める年代として最も多い 孤独に至る前の状況として「1人暮らし」が多い	男性	孤独を「感じたことがない」割合が最も多い
		女性	孤独に至る前の状況として「1人暮らし」が最も多い
30代	孤独に至る前の状況として「転居」「出産・育児」が最も多い 全年代で最も孤独を感じている層が多い	男性	孤独に至る前の状況として「転居」「一人暮らし」が最も多い
		女性	性年代別で最も孤独・孤立を感じている人が多い 孤独に至る前の状況として「妊娠・出産」が最も多い
40代	孤独に至る前の状況として「一人暮らし」「転居」「人間関係」が最も多い	男性	孤独に至る前の状況として「一人暮らし」が最も多い
		女性	孤独に至る前の状況として「転職等」が最も多い
50代	孤独を感じ始める年代として最も多い 孤独に至る前の状況として「転職・離職」「家族との死別」が最も多い	男性	孤独に至る前の状況として「転職・離職」が最も多い
		女性	孤独に至る前の状況として「転職・離職」が最も多い
60代～	孤独に至る前の状況として「家族との死別」が最も多い	男性	孤独に至る前の状況として「家族との死別」が最も多い
		女性	孤独に至る前の状況として「家族との死別」が最も多い

(図表 6-5 アンケート調査結果報告資料「性年代別の孤独・孤立に関する特徴」)

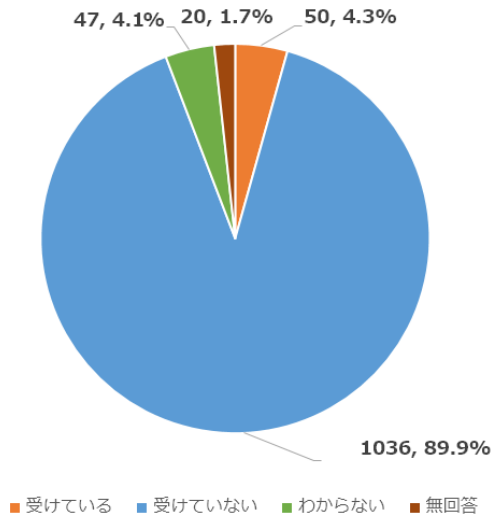
また鶴岡市においては、孤独・孤立に関する支援制度の利用について、行政機関・NPO等からの支援を受けておらず、また必要としていないという人が大半を占めている。

一方で、「今後支援を受けたいと思うか」という設問については、34,0%が「支援を受けたいと思う」と回答しており、一定程度の支援希望ニーズがあることがわかった。特に、20代～30代の女性については、「支援を受けたいと思う」という方の回答率が、全体の50%を超えており、今後の支援制度についても検討の必要性があると認識された。

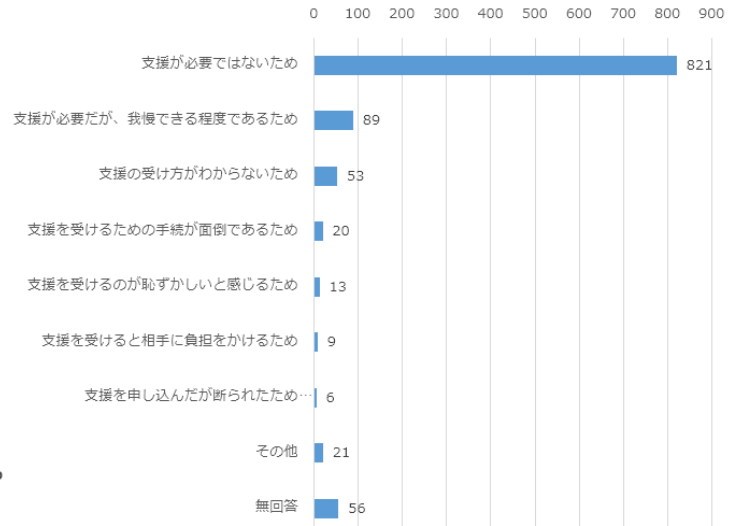
## 行政機関・NPO等からの支援の有無 / 支援を受けていない理由

- 鶴岡市全体で行政機関・NPO等からの支援を現在受けている人は4.3%に留まっている
- 支援を受けていない理由としては「必要ではない」が最も多く全体の8割程度を占めている一方で、「支援が必要だが我慢できる程度である」「支援の受け方がわからない」といった回答も見られた。

行政機関・NPO等からの支援の有無



支援を受けていない理由

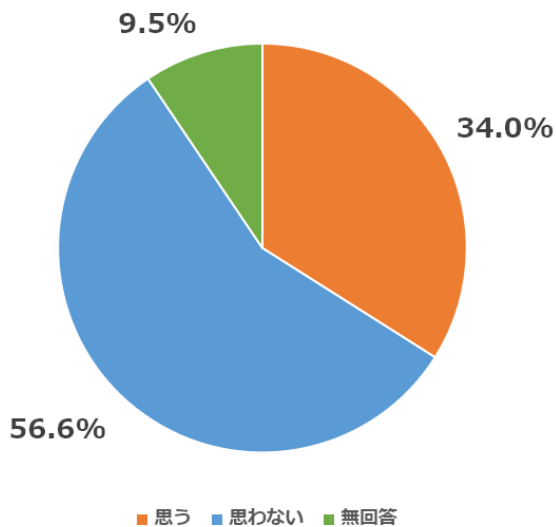


(図表6-6 アンケート調査結果報告資料「行政機関・NPO等からの支援の有無/支援を受けていない理由」)

## 今後支援を受けたいと思うか

- 今後の支援希望については、34.0%が「支援を受けたいと思う」と回答した。
- 特に30代の女性においては今後の支援希望率が高く、51.4%が「今後支援を受けたい」と回答した。

鶴岡市全体



性年代別  
「支援を受けたいと思う」人の割合

男性：全体	31.4%
16～19歳	20.0%
20～29歳	30.0%
30～39歳	37.0%
40～49歳	32.8%
50～59歳	25.4%
60～69歳	36.4%
70～79歳	30.6%
80歳以上	30.2%
女性：全体	35.9%
16～19歳	27.8%
20～29歳	52.9%
30～39歳	51.4%
40～49歳	40.6%
50～59歳	36.8%
60～69歳	34.1%
70～79歳	27.4%
80歳以上	38.4%

(図表6-7 アンケート調査結果報告資料「今後支援を受けたいと思うか」)

②No.2 設立準備会の開催（予定）

<b>【準備会の概要（予定）】</b>	3月24日	金曜日	14:00～17:00	開催予定
1400～1405	開会挨拶			(鶴岡市)
1405～1420	孤独・孤立政策説明			(内閣官房)
	市の方針説明			(鶴岡市)
1420～1435	アンケート結果説明			
1435～1535	基調講演			(大橋 謙策氏)
1545～1650	自己紹介・意見交換会			(参加者)
1650～1655	終わりのことば			(鶴岡市)

(図表6-8 設立準備会プログラム)

本準備会は、連携PF本会の立ち上げに向けて、鶴岡市内における孤独・孤立に関連する関係団体を整理し、関係団体同士の相互理解を深めることで庁内・庁外における連携体制を確立すると共に、市内の孤独・孤立の状況や孤独・孤立に関する考え方を理解し、連携PFにおける協議の活性化に向けた意識醸成を目的に実施した。そのため、鶴岡市内における孤独・孤立に関するアンケート調査の結果と、各団体における活動内容をすり合わせて協議できるよう準備会のプログラムを構成した。更に、市の福祉アドバイザーであり、地域福祉を専門とする大橋謙策氏に講演を依頼し、地域における孤独・孤立に関する考え方について参加者の理解を促す編成となっている。また、意見交換会では、各団体における活動内容の発表の他、実際の現場の視点からみた孤独・孤立に関する各課題について共有する時間を設け、関係団体同士が相互理解を深められるように設計を行った。

No.	団体・組織等	分野
1	山形県立こころの医療センター	こころの医療
2	鶴岡市地域包括支援センター連絡会	高齢
3	児童家庭支援センター シオン	子ども
4	鶴岡市障害者相談支援センター にこころ	障害
5	鶴岡市地域生活自立支援センター くらしステーション	生活困窮
6	鶴岡市社会福祉協議会	地域福祉
7	鶴岡市民生児童委員協議会連合会	民生児童委員
8	庄内地域若者サポートステーション	若者就労支援
9	鶴岡市スクールソーシャルワーカー	教育
10	特定非営利活動法人 一歩・自立支援センターふきのとう	ひきこもり支援団体
11	特定非営利活動法人 ぼらんたす	支援活動団体
12	特定非営利活動法人 明日のたね	

(図表6-9 鶴岡市連携PF設立準備会 参加予定団体一覧)



③No. 3 広報媒体の作成（周知チラシの作成）

孤独・孤立に関する取組を広く住民に周知するため、紙媒体の周知ツールとして孤独・孤立の相談窓口等を掲載したチラシを作製し、関係各課並びに関係団体へ頒布した。



(図表 6-10 鶴岡市 孤独・孤立に関する窓口周知チラシ)

※合計 10,000 部を印刷し、鶴岡市内の民生委員・NPO 法人等の関係団体へ配布

(4) 当該自治体の今後の連携 PF 組成の方向性

鶴岡市では今後の準備会において、参加団体の意識醸成を行うと共に、孤独・孤立問題に対する共通認識を共有し、秋以降の連携 PF における課題解決に向けたアイデア検討や連携体制の構築を実施していく予定である。また、テーマや連携体制の拡大に応じて、連携 PF の参加団体を拡大していくことも検討している。

令和 5 年度においても引き続き連携 PF 形成に向けた活動を続けることとしており、令和 5 年 6 月頃に第 2 回準備会、同 9 月頃に連携 PF の構築を予定している。

(5) 活動から得られた知見

- ① 鶴岡市においては「誰一人取り残さない支援」を目指し、連携 PF の組成テーマとしている。そのためには関係各団体・関係各課を巻き込んだ横断的な協力体制が必要となるが、本連携 PF の形成過程においては担当課（地域包括ケア推進室）より直接各団体に対して今回の取組を説明し理解いただいた上で参加了承を受けている。また参加団体の選定に際しては、庁内の孤独・孤立対策関係課から、市内における核となる関係団体の紹介を受けるなど、連携 PF 形成の前段階から積極的な団体折衝・庁内連

携を実施していることが参加団体の高い意識醸成に繋がっていると考えられる。

- ② 市民アンケート調査においては、抽出調査対象とする市民に加えオープン調査として広く市民の孤独・孤立に関する実態把握を行った。これにより調査単体としての実態をつかむ目的のみならず、多くの市民に対して、今後鶴岡市が孤独・孤立に関する積極的な取組を推進する姿勢を示すことができたと推察される。
- ③ 鶴岡市においては、孤独・孤立支援に対する個別の取組自体が以前から実施されていたものの、庁内横断的な取組には至っておらず、複合的な課題の解決に難しさを感じていた。また、孤独・孤立分野については明確な担当課がこれまで存在していなかったため、「孤独・孤立」という分野に対する庁内の理解が不足していた。そこで、本事業での「孤独・孤立」という枠組みでの取組を庁内に周知していくこととした。今回、鶴岡市では連携 PF の構築に向けて、庁内における孤独・孤立に関する理解度を高めた上で、核となる関係団体を整理し、協議体とし組成していく手法を実行した。これについては、今後孤独・孤立に関する取組を初めて実施する自治体において、庁内意識の醸成という観点から参考になる取組だと考えられる。孤独・孤立分野は各自治によって背景や重点分野が異なるため、まずは庁内において「孤独・孤立対策」という取組そのものを周知することで、その自治体に合った連携 PF の組成団体を網羅的に抽出することができると考えられる。

以上